

平成 26 年度 特定非営利活動に係る事業計画書

事業実施の方針

環境保全事業グループ

- ・我孫子いろいろ八景に選ばれた根戸城址を中心とする里山、田畑、水辺とその景観は今まさに貴重な存在になっている。シニアの力をもって、この地を活用、保全し後世につなげて行くことを目的とする。
- ・清掃から始まり、根戸城址の管理、ハス田の管理、養蜂、果樹栽培、竹教室、さらに水稻、そば、遊休地を使つての景観植物の栽培と、各グループとの連携を持って年間を通して活動を行う。

農事・農教室グループ

- ・有機生態系農業を学び研究し実践する場として農教室を開講する。また、受講生のなかから、有機生態系農業の母胎たる里山環境の保全活動の担い手を育成することを目指す。
- ・農教室は 4 チーム編成とし、管理する圃場をチーム毎に割り振るとともに、作付け作物を厳選し、無理なく充実した講座となるように工夫する。特別コースにおいては、土作りに焦点をあててより進んだ実践を推進する。
- ・継続して行っている冬水田圃における水稻栽培、ソバ栽培については、質の向上と収量の向上とを目指す。

農地保全グループ

- ・新規借り入れ遊休農地約 10a においてヒマワリおよびクリムソクローバを栽培する。
- ・ヒマワリは食用油に適した品種を採用し、ヒマワリ油の商品化をめざす。
開花時期にはイベント((仮)迷路とクイズに挑戦)を開催し圃場を市民に開放することにより、地あぶらの有効性とトラスト活動への理解を深める。
- ・クリムソクローバは景観形成作物とともに緑肥作物として遊休農地の地力回復をめざす。
- ・ヒマワリおよびクリムソクローバ栽培はいずれも我孫子市景観形成事業の補助対象として申請する。

交流事業グループ

- ・会員相互並びに一般市民との交流の場として、早苗饗(さなぶり)、案山子祭り、そば祭り、餅つき大会などを実施する。
- ・昨年整備された根戸城址の舞台を使い、落語会やコンサートなどを行う。
- ・会員同士、あるいは他団体、行政、事業者と自然環境や農について学び、情報の共有化を図る。
特に柏市市民活動フェスタへの参加や、顧問契約を結ぶ小松崎茨城大学農学部教授の講座等を開催する。

事務局

- ・4 つの事業グループが存分に活動できるようバックアップする。
- ・根戸新田地区の遊休農地の保全にむけて、手賀沼トラストが主体となって取り組む活動をサポートするとともに、手賀沼ファームなど他団体との連携、地域住民への呼びかけなどをおこない、保全活動のハブとなるべく努力する。
- ・トラスト会員の募集を市の広報なども使って積極的におこなう。
- ・長年の懸案であった損害賠償保険問題に決着をつける。
- ・組織・制度等検討ワーキンググループの答申を待ち、組織、制度の見直しをおこなう。
- ・安全管理、リスク管理に努める。昨年にひきつづき「安全確認の励行」「自己健康管理の徹底」を図る。